

2020年9月27日(日)  
聖霊降臨後第17主日  
銀座教会 主日家庭礼拝

礼拝招詞

「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。喜び祝い、主に仕え／喜び歌って御前に進み出よ。知れ、主こそ神であると。主はわたしたちを造られた。わたしたちは主のもの、その民／主に養われる羊の群れ。」詩編100編2～3節

主の祈り

使徒信条 我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来たりて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の生命を信ず。アーメン。

讚美歌 95

聖書 ルカによる福音書1章26～38節

1:26 六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。27 ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。28 天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」29 マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。30 すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。31 あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。32 その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。33 彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」34 マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。36 あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。37 神にできないことは何一つない。」38 マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

牧会祈祷

ご在天の父なる神さま。聖霊降臨後第17主日をお迎えました。主イエスが復活された朝、私たちがこうして家庭礼拝・教会での礼拝をお捧げできます幸いを感謝いたします。この1週間の一巡りの旅路もあなたの恵みのうちに支えられましたことを感謝いたします。あなたから頂いている恵みの一つ一つを数えながら歩めますように。今、疲れや試練の中にある兄弟姉妹の上に、あなたの豊かな慰めがありますように。御堂に集うことを願う兄弟姉妹が安心して再び集うことができますようお導き下さい。子どもたち、学生達、働く者、

家を守る者、子育てをする家庭、介護の労にあたるもの、全ての世代の方々が懸命に歩んでおります。神様の守りの中で、あなたと隣人を愛して歩むことができますよう導いてください。

この祈りを主イエス・キリストの御名によって、お捧げいたします。

アーメン

## 説教 「おとめマリアより生まれ」

伝道師 藤田 健太

使徒信条における主イエス・キリストのご生涯の告白は「おとめマリアより生まれ」の一節ではじまります。そのあとにすぐ「ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架に付けられ、死にて葬られ…」が続きます。苦難のご生涯のなかに本日の誕生の箇所（箇所）の告白が光を与えています。主の誕生の箇所（箇所）の告白には神様の約束の力が満ちています。神様の約束による一人子の誕生が「三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり…」の告白に私たちを導くのです。さらに言えば、「おとめマリアより生まれ」の一節は「天地の造り主、全能の父なる神を信ず」を前提に踏まえています。本日の「おとめマリアより生まれ」の一節は「天地の造り主、全能の父なる神を信ず」の告白に次ぐ、言わば、使徒信条における第二の創造の告白と理解することができます。主イエス・キリストの誕生は神様の大きい創造の御業であり救いの御業です。使徒信条における第二の創造の告白は、創造の御業であると同時に救いの御業であるという点で、第一の創造の告白に勝るとも劣らぬ重大な出来事の告白であると理解することができます。

使徒パウロはローマの信徒への手紙の中で、最初の人間アダムと救い主イエス・キリストを重ねて対称的に描き出しました。それと似た仕方で、最初の女性エバとイエスの母マリアを対称的にとらえる理解が後の教会の歴史の中に生じます。救い主キリストが最初の人間アダムの罪を克服しました。それと類比的に、救い主の母マリアが最初の女性エバの罪に打ち勝ったという理解が古代教父たちによって示されました。救い主の母に特別な力を見出したいという欲求はすでに聖書の中にも観察されます。例えばルカによる福音書 11 章 27 節に次のような一節があります。「イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。『なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。』」—後のマリア崇拜の端緒がすでに表れていると指摘される箇所です。しかしこの一節は続く主イエスご自身の御言葉によって修正を加えられます。「しかし、イエスは言われた。『むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。』」—ただ一人の救い主なる母から、キリストを信じる私たち一人ひとりへと目を向け直させる主の御言葉です。ルカによる福音書は救い主の母マリアに特別な関心を寄せる福音書であると言えます。ルカは救い主の母マリアをどのように描き出しているのでしょうか？ 私たちはどのような信仰の下、「おとめマリアより生まれ」を告白すればよいのでしょうか？ 本日の聖書の箇所から一緒に考えてみたいと思います。

ルカによる福音書 1 章 26 節以下は「六か月目に…」とはじまります。「六か月目」というのは直前に描かれたエリサベットの妊娠期間をさします。洗礼者ヨハネと主イエスの誕生の出来事が一続きの出来事として描かれていることが分かります。洗礼者ヨハネは旧き契約の時代を締めくくる最後の預言者です。そのヨハネの誕生と主イエスの誕生がセットで描かれるということは、旧約聖書に描かれた神の民の救いの歴史とイエス・キリストの福音によりはじまる救いの歴史が別々のものでなく、神様の約束の内に繋がっている一つの歴史

であることを意味します。旧約と新約の接続のテーマは 26 節以下の具体的なエピソードの中に展開されてゆきます。「天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである」とあります。神の天使はかつてダビデが治めたユダ王国に属するガリラヤの小村ナザレに遣わされます。その村に住む零落したダビデの家のヨセフという人物のいいなずけのもとに遣わされたことが語られます。救い主であるメシアがダビデの系譜から顕われるという旧約以来の伝統的な理解がそこに反映されています。主イエスの誕生は長きにわたった民たちの祈りの歴史に対する神様からの決定的な答えでした。「天使は、彼女のところに来て言った。『おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる』。マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。」—天使の挨拶を前にしたマリアの熟慮が非常に印象的です。神様からの天使はるか昔にも神の民に向かってこのような挨拶をおくったことがありました。旧約聖書士師記 6 章 12 節に本日の箇所とよく似た天使の挨拶の言葉が見られます。「主の御使いは彼(=ギデオン)に現れて言った。『勇者よ、主はあなたと共におられます』。」—神の民は「主があなたと共におられる」という言葉を長い歴史の中で繰り返し聞きながら導かれてきました。その最たるものはイザヤ書 6 章 14 節の「インマヌエル預言」です。「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み、その名をインマヌエルと呼ぶ。」—「インマヌエル」とは「神がわれらと共におられます」の意味です。旧約の歴史のなかで繰り返されてきた神様の約束が主イエス・キリストの誕生によって実現しました。そこに到るまでの神様の計り知れないご計画に思いを馳せるかのように、天使の挨拶を前にしたマリアは深い熟慮へと導かれたのでした。

「すると天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない』。」—かつてモーセに対してご自分の名前の意味を解き明かしてくださったように、神様はマリアに対しても生まれてくる一人子の名前の意味を解き明かして下さいます。「イエス」という名前には「彼(=神)は救う」という意味があります。神様が私たちをどのように救ってくださるかが続く天使の言葉のうちに説明されます。「彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない」と言われます。長きにわたる民の苦しみに終止符を打ち、神様のとこしえの御国を建てあげることによってわたしたちを救う御方であることがそこに開示されます。

「マリアは天使に言った、『どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに』。」—神様の創造の御業であり救いの御業である御子の誕生は、私たちの理解を超えた出来事でした。確かなことは、神様の約束の力がそこに働いていたということです。続く天使の言葉はただただその印象を強めるばかりです。「天使は答えた。『聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれてくる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリザベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。神にできないことは何一つない。』」—「聖霊」と「いと高き方の力」の付与はヨハネの誕生の際には語られなかった言葉です。神様の断固たる救いの決断が生まれてくる一人子を通して成ることをマリアは知らされました。それゆえマリアは次のように応えます。「マリアは言った。『わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように』。」—マリアは神様の断固たる決断を前にして仕方なしに出来事を受け入れたのでしょうか？それとも、

救い主の母、第二のエバとして、並々ならぬ意志の力によって出来事を受け入れたのでしょうか？きっとそのどちらでもないと思います。ルカによる福音書 1 章 26 節以下に描かれたマリアと天使の短い対話のエピソードには旧約聖書における神様の救いの歴史が凝縮されています。神さまによる圧倒的な救いの事実を前にして、マリアは安心して神様の前に身をおささげしたのではないのでしょうか。神様の圧倒的な救いの事実を前にした時、私たちはただそれを受け入れることができるのみです。まさにその点でマリアという一女性と私たちの間にはいかなる差もないと言ってよいでしょう。マリアが天使との対話のうちに思い出した神様の救いの歴史の只中を私たちも歩んでいます。使徒信条にある「おとめマリアより生まれ」の告白をおささげする時、私たちは神様の救いのご計画の成就を思い、神様への深い感謝をそこで新たにすることができるのです。

### 祈 禱

天の父なる神様、使徒信条によって「おとめマリアより生まれ」と告白できる恵みに感謝いたします。この告白によって、暗闇の中を歩む私たちは大いなる光を見つめることができるようになります。計り知ることのできない神様の救いの御計画が私たちの救いに到ったことをマリアと共に思い起こすことができました。どうぞ私たちをあなたの僕としてお用いください。主イエス・キリストによる救いの証人としてわたしたちの 1 週間の歩みをおささげいたします。この祈りを主イエス・キリストの御名によって御前におささげいたします。

アーメン

### 祈 禱(各自、自由にお祈りください)

祈禱課題 教会の兄弟姉妹の健康、信仰と喜びのため  
コロナウイルスの収束のため  
キリスト教主義学校の働きを覚えて  
求道者のため、各家庭の家族伝道を覚えて

### 讚美歌 324

### 献 金

### 頌 栄 544

### 祝 禱

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

アーメン